

「中之島アゴラ構想」基本方針（案）

中之島のまちづくりの方向性

- ◎ 大阪駅周辺、御堂筋周辺地域とともに、大阪、関西のみならず国土の発展、成長をけん引する国際競争力を備えた拠点を形成
- ◎ このため、国際レベルの人材・企業の活動の受け皿となり、多様な人々の交流を通じ、新たな価値・情報・文化等を創出する知的創造拠点機能を強化
- ◎ 中之島地域における、これまでの業務・文化・MICE 機能の集積に加え、新美術館の整備を核に、未利用地の土地利用転換を図り、ハイエンド人材の育成に資する大学等の高等教育施設を導入するなど、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりを実現
- ◎ 新美術館の整備により、既存の国立国際美術館・市立科学館とのミュージアムトライアングルを形成し、国際的な文化・芸術機能を強化

「都市再生緊急整備地域（大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域）の整備に関する方針」より

コンセプト

産学官の連携により、

文化・芸術・学術・技術のあらたな交流・発信拠点となる“中之島アゴラ”の形成を推進する

“中之島アゴラ”の意義

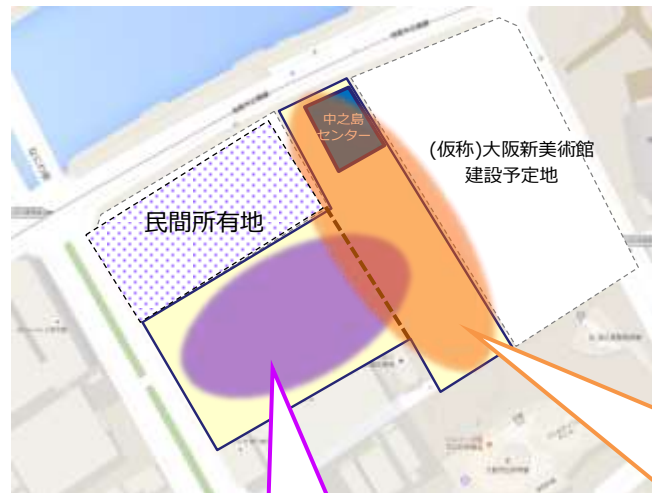
- ◎ 世界に向けた社会的価値の創造…大阪大学中之島センターでの蓄積を活かした、さらなる社学連携の展開
- ◎ 中之島エリアのブランド化とシビックプライドの強化…国立国際美術館・市立科学館・(仮称)大阪新美術館の形成する“ミュージアムトライアングル”との連携・調和
- ◎ 後続するまちづくり計画への波及…中之島エリアにとどまらず、関西全体のまちづくり・産業創出に寄与

“大阪大学の知”の活用

- ◎ 国立総合大学としての高いポテンシャル…優れた人材、卓越した教育研究内容を有する我が国屈指の研究型総合大学。学部学生数は国立で最大。
- ◎ 産学連携における先進性と高い研究力…全国の大学に先駆けて「共同研究講座」等を設置し、「Industry on Campus」構想を実現。「革新的な大学ランキング」（2015年ロイター社）では世界18位、国内第1位。
- ◎ 世界と繋がるネットワーク…企業や市民が大阪大学と繋がるだけでなく、大阪大学が持つ国内外への強力なネットワークを通じて、中之島から世界に直接繋がる。

大阪大学から中之島アゴラ構想の提案

拠点イメージ



再生医療国際拠点候補地

敷地 約 7,500㎡

アゴラ構想対象敷地 約 12,000㎡
(大阪市有地)

拠点の機能

社学共創拠点

- 大阪大学中之島キャンパス社学共創拠点の強化
- 地域社会やその諸機関との連携による人材育成機能・社学共創人材ネットワーク構築
- 自治体・企業等との連携による社学連携のグローバル化

産学共創クロスイノベーション拠点

- 大阪大学の研究所群の資源・サービスのワンストップ拠点の形成や企業との共同研究ユニット、アウトリーチセンターの導入などオープンイノベーションの加速
- 産学共創によるイノベーション人材の育成や高度医療人材育成プログラムの拡充
- 健康・医療クロスイノベーション会議との連携

アート拠点

※今後の検討状況によって変わる可能性がある。

- (仮称)大阪新美術館との研究教育連携など社学共創型アートリサーチと共創事業の推進
 - 海外の芸術系諸機関との連携推進などグローバルネットワーク構築とグローバル人材育成
 - 学生・社会人アートファシリテーター育成などアート関連教育と芸術・情報発信事業
- ※大学スタッフ15名程度で形成、その他学生50~60名程度が日常的に学び活動する。

※大学スタッフ110名、企業スタッフ50名程度で形成。

敷地 約 1,000㎡

(延床面積 約 8,200㎡)

社学共創拠点

〔大阪大学
中之島センター〕

※既存中之島センターを活用

事務室、会議室、展示スペースなど

敷地 約 4,500㎡

(延床面積 20,000~25,000㎡程度(共有部含む))

産学共創

クロスイノベーション拠点

基盤研究施設、共同研究室、技術室、展示スペース、交流スペースなど

アート拠点

各種ホール、稽古場、工房、ライブ러리・アーカイブ、研究室など

スケジュール

※今後の検討状況によって変わる可能性がある。

2017 (H29) .3

基本方針(案)策定

具体化の検討

- ・施設計画 (規模・配置等)
- ・整備スキーム
- ・運営スキーム等

2018 (H30) .3

基本計画(案)策定

2018 (H30) 年度

基本設計・実施設計

施設整備工事

2021 (H33) 年度以降

施設オープン